

科目： 博物館学

#### 出題意図

博物館学の基礎理解をもとに、現代的課題を把握し多面的に論理化できるかどうかから、「基礎理解」「思考力」「表現・応用力」をみる。とくに、下記の3点を採点基準とする。

#### ○博物館の基本機能（保存・展示）に対する理解力

「保存」と「展示」をそれぞれ単独の機能としてでなく、人的・財政的制約の中で相互に関係する要素として理解し、その役割と課題を適切に説明できるかを評価する。

#### ○博物館の公共性・持続可能性を多面的に考察する論理的思考力

来館者数、教育普及、観光振興、外部資金・支援制度などの観点から、博物館がもつ公共性・自律性・経営持続性のバランスを論理的に論述できるかを評価する。

#### ○具体例・概念を用いた応用的記述力

実在する博物館の事例や博物館政策、文化資源管理、メセナ、指定管理制度等の概念を適切に使いながら、自らの見解を具体性と説得力をもって表現できるかを評価する。

#### [解答例]

博物館における「保存」と「展示」は、いずれも不可欠な基本機能であり、かつ相互補完的な関係にありながら、限られた資源のもとでは物理的・経済的に相反する課題となる。

保存は資料や作品を将来へ継承するための基盤であり、温湿度管理、修復、収蔵環境の整備など継続的な費用を要する。一方、展示は文化資源を社会に開き、その価値を共有する行為であり、教育普及や地域振興、観光資源としての役割も担う。しかし展示の活性化を優先し過度な集客を志向すれば、資料への物理的負荷増大や娯楽化による学術性の希薄化を招く可能性がある。また、保存にかかる継続的コストについては、これを展示収入や公的資金、企業メセナによって支える構造がある。日本では、企画展や地域連携事業による社会的評価向上が運営基盤を補強する一方、収蔵庫不足や修復費の慢性的不足が課題となり、保存と公開のジレンマは現実的問題である。

こうした状況において外部からの芸術支援は不可欠だが、資金提供者の意向が展示方針に影響を与えれば、博物館の公共性・自律性が損なわれる懸念もある。2022年のICOM新定義が強調するように、博物館は社会のための包摂的・多声的な機関であるべきであり、支援の受け入れにあたっては専門的判断の独立性を担保する仕組みが求められる。

したがって博物館の持続可能性とは、収益性の確保のみでなく、保存による文化継承と展示による社会還元を均衡させ、外部支援を活用しながらも専門性と公共性を維持する運営体制を構築することにある。

(634字)